

なかよくする子どもを育てる

久田恵さん

「おやくそくやルールを守ることの大切さを知り、一緒に遊ぶことの楽しさを味わう。」

今年の夏には、いよいよ東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。開催時期に、「どうして?」という疑問はありますが、何よりも大会が成功裏に終了することを望んでいます。

報道ではあまり表に出てきませんが、「スポーツには世界と未来を変える力がある。」という大会ビジョンと、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」という3つの基本コンセプトがあります。世界のトップアスリートたちが集まり、人間の極限の能力を目的に当たりにすることができ、またとない機会です。世界中の選手が同じ競技で技術・技能を競うためには、言うまでもないことですが、そこには共通のルールがあります。同じルールでなければ、勝敗をつけることができません。しかし同じルールに則っても、結果を機械的に数値化することができる競技もあれば、審判の主観的な判断に左右される競技もあります。すべてが公明正大に、というのはなかなか難しいのでしょうか、納得のいく結果が得られるならば、スポーツの醍醐味を味わうことができると良いでしょう。

オリンピックやワールドカップの競技に出場する選手も、はじめはちょっとした遊びからスポーツに関わり始めた人が多いのではないのでしょうか。子どもの頃の友だちとの遊びは、それは楽しいものです。私の子どもの頃の遊び場は、私が現在勤めている園とお寺がある、言わば自分の家の庭でした。でも幼稚園児の頃は、近所の小学生の遊びにはまだ入れてもらえず、小学1年になって初めて、遊び仲間に入れてもらえました。「自分の家の庭なのに!」という思いはありましたが、一方で、仲間に入れてもらえた嬉しさでいっぱいでもありました。その小学生の集団の中には、やはりおやくそくやルールがありました。私の家の庭であっても、そのルールは守らねばなりません。一度ルールを守らない行動をとったために、6年生からひどく叱られたことを今でも思い出します。以前はこんな小さな集団の中のおやくそくやルールを守ることで、社会性を学んでいたのですね。

オリンピック開催の前年になる昨年は、日本でいくつかの国際競技大会が開かれ、海外からたくさんさんの選手団や応援団の方がいらっしやいました。その多くの方々が、日本の「おもてなし」の心を深く感じられた、と報道されていました。特に子どもたちの姿に感動した、との声をいくつか耳にしました。子どもたちはおやくそくやルールを守り、おもてなしの姿を示すことの大切さを心得ていたのです。

ノンフィクション作家の久田恵さんに、
「言っていることではなく、やっていることがその人の正体」という言葉があると聞きました。とかく大人になると口では言うけれど行動が伴わない姿が多くなります。どこに私の正体があるのか、振り返ってみることがとても大切です。

まことの保育の願い

教育原理委員会 西谷正文